

第112回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和6年9月26日（木）

午後7時～午後7時40分

会 場：城山総合事務所本館2階B会議室

出席者：20名（欠席5名）

傍聴者：1名

1 開 会 内山所長

2 代表あいさつ 小島代表

3 報告事項

第7期相模原市緑区区民会議 活動報告について

小島代表より、第7期相模原市緑区区民会議（任期：令和4年7月30日～令和6年7月29日）について、活動報告がされた。

4 議 題

（1）令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会について

ア 実施要領等について

イ テーマと内容について

事務局から令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会の実施要領等について説明を受けた。

《 主な意見 》

- ・鍛冶谷相模原線の歩道の整備の件については、質問事項というかたちで市担当部署に投げかけ、回答をいただくこととしたい。
- ・前回のまちづくり会議の中で「防災」をテーマにしてはどうか、という話が上がり、役員会の中でもそのような意見でまとまったが、今年のみちづくりを考える懇談会は「防災」をテーマにすることによろしいか。
⇒異議なしの声

（2）城山地区で具現化していく取組について

全体会では、事務局から資料8、資料9に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後にそれぞれ解散となる旨説明があった。

(3) その他

平栗委員から、相模原市安全・安心まちづくり推進協議会代表者会議についての説明があった。交通安全対策事業の取組結果の資料が、今後のまちづくり会議において参考になると思うので、目を通してほしい旨の話があった。

また、小倉地区の湘南小学校で40年続いたスローダウンキャンペーンが、警察の指示により例年の内容で実施できなかった旨の話があった。警察官指導の元、信号でトラック等を止めて、子どもたちがメッセージの入ったティッシュを直接手渡しするというものであったが、危険なため今年から実施不可となってしまったとのことで、とても良い事業であったため、ぜひ再度実施できるよう働きかけていきたいとのことであった。

5 閉 会 高野副代表

以 上

【全体会終了後の各部会での検討内容】

●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

これまで部会で検討してきた「しろやま☆おせっかい」の取組として、おせっかいの輪を広げる「おたがいさまの縁づくり」について、9月28日に小松・城北地区で実施予定のため、検討が行われた。また、11月実施予定であった葉山島地区については実施をしないことになり、7月に熱中症警戒アラートが出たためにウォーキングができなかった向原地区について、再度11月に実施することとなった。

《 主な意見 》

- ・ 11月実施予定であった葉山島地区については、地域の関わり合いが深く、見守り等も既に行われているとのことで、実施しないこととしたい。
- ・ 7月に熱中症警戒アラートが出てウォーキングができなかった向原地区について、11月に再度チャレンジするのはどうか。
⇒異議なしの声
- ・ 11月23日に向原地区で実施することとしたい。ウォーキングのコースについては、7月実施予定であった計画を少し変更する。
- ・ 9月28日実施予定の小松・城北・町屋地区については、チラシを配り終え準備は大方終えている状況である。

●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

これまで部会で検討してきた「あつまれ～しろやまっこ！」の取組について、作成したチラシの内容確認、城山もみじまつりへの参加内容の確認をし、各小学校でモルック体験会を実施することになった。また、対象は城山地区在住の小学生とし、1～2年生は保護者同伴で参加可とすることとした。

《 主な意見 》

- ・川尻小学校へ挨拶に行った際、校長先生からいくつかご意見をいただいた。チラシを配るだけではなかなか人は集まらないのではないかと、モルックの知名度が低いので各小学校で体験会をやってみてはどうか、冬の開催で外は寒いので体育館で開催してはどうか、等である。
- ・公民館の事業で城山地区全小学校にチラシを配ることがあるが、なかなか子どもたちが集まらない。チラシを配るだけでは人を集めるのは難しいと思う。
- ・各自治会の回覧や、育成会を通して周知しても良いと思う。
- ・各小学校でのモルック体験会は、学校の許可が出れば実施した方が良いと思う。昼休みに行ってみてはどうか。
- ・モルックは基本的に屋外でやるスポーツなので、体育館ではなく校庭で実施が良いと思う。
- ・各小学校の副校長先生に相談をして、モルック体験会が実施可能な学校で実施する。
- ・ポスターを別で作ることはせず、作成したチラシを自治会掲示板等に掲示する。
- ・対象の小学生を、城山地区在住と記載する。
- ・雨天時は川尻小の体育館でシートを敷いて実施する。
- ・城山もみじまつりへの参加について、午前中は別の遊びの体験があるので、午後にモルック体験会を実施する予定である。
- ・城山もみじまつりへは、城山地区子ども会育成連絡協議会も数名協力をしてくれる予定になっている。
- ・モルックを3セット使って城山もみじまつりで体験会を実施する。
- ・対象を小学校3年生以上としているが、小学校でモルック体験会を実施した場合、2年生以下は参加不可とするのは難しい部分がある。2年生以下は保護者同伴であれば参加可とするのはどうか。

以 上

第112回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期：令和6年4月27日～令和8年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会(会長)	代表	小島 盛生	出席
2		城山地区自治会連合会(副会長)	副部会長①	林 和博	出席
3		城山地区自治会連合会(副会長)		中野 秀人	欠席
4		城山地区自治会連合会(川尻小学校区)		井上 貢一	出席
5		城山地区自治会連合会(湘南小学校区)		西川 正行	出席
6		城山地区自治会連合会(広陵小学校区)		安西 忠義	出席
7		城山地区自治会連合会(広田小学校区)	副部会長②	小原 貴弘	出席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会		井上 章	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会	副代表	菅野 敬子	欠席
10		城山地区シニアクラブ連合会		依田 和光	出席
11		相模原市赤十字奉仕団城山分団	部会長①	宗田 眞理子	出席
12		城山地域包括支援センター		藤瀬 香理	出席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	出席
14		城山観光協会		櫻井 かおる	出席
15	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		小野寺 義行	出席
16		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
17	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	高野 朝枝	出席
18		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		田中 友紀	出席
19		城山体育振興協議会		松木 昇	欠席
20		城山地区小中学校長情報連絡会		鈴木 満博	出席
21		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャークラブめいぷる		片倉 理恵	出席
22		神奈川県立相模原城山高等学校		小松 巖	出席
23	有識者		部会長②	金子 直美	出席
24				八木 正夫	欠席
25				本野 直子	出席

①は高齢者とともに築き支える地域づくり部会

出席者数 20人

②は子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

欠席者数 5人

第112回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和6年9月26日(木)
午後7時
会 場 城山総合事務所本館
2階B会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 報告事項

第7期相模原市緑区区民会議 活動報告について . . . 資料1

4 議 題

(1) 令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会について

ア 実施要領等について . . . 資料2～4

開催日 令和7年1月 日() 午後6時から
会 場 城山公民館1階大会議室

イ テーマと内容について . . . 資料5～7
参考資料

テーマシート提出期限 令和6年11月末

(2) 城山地区で具現化していく取組について(部会検討) . . . 資料8・9

4 閉 会

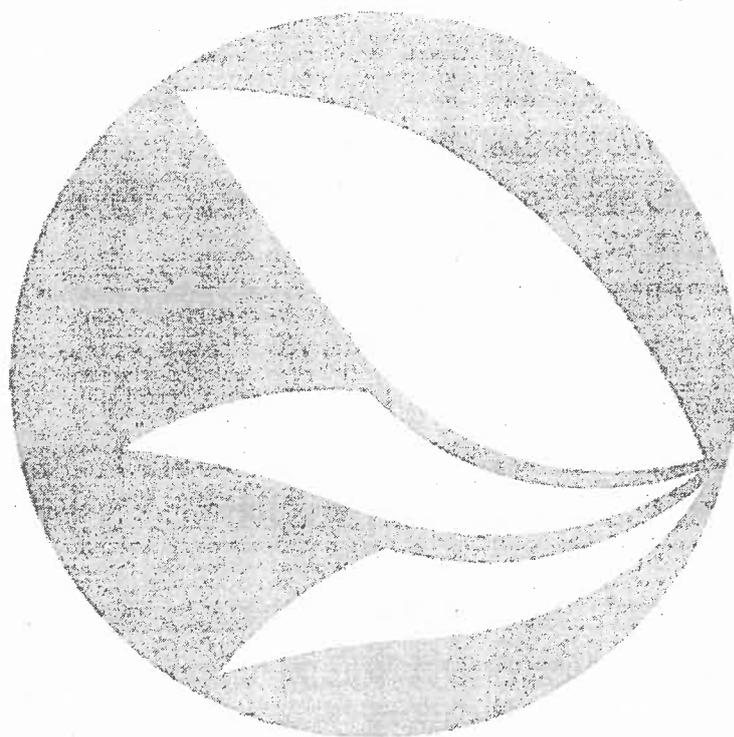
<次回の予定>

第113回全体会

11月28日(木)午後7時

城山総合事務所
本館2階B会議室

第7期
相模原市緑区区民会議
活動報告まとめ



相模原市緑区区民会議
令和6年7月

第7期 緑区区民会議のまとめにあたって

緑区の目指す姿は「実る緑区」です。第7期緑区区民会議は、実る緑区を実現するために、さらなる行動のステージに入りました。

具体的には、緑区内の県立高校4校の生徒による「高校生区民会議」を開催しました。また、法政大学ソーシャル・イノベーションセンターの協力のもと、学生目線の魅力発信プロジェクトが動きだしています。これらの活動を端的に表現すると「行動する緑区区民会議」と言えそうです。

「実」の意味を辞典で調べると「家の中に財宝が満ちていることから、ひいて「みちる」、転じて「みのる」「み」の意を表す」とあります。

緑区内には多くの地域資源があります。地域資源は、財産（財宝）です。これらの地域資源（財産・財宝）を再発見し、緑区で生活する住民の福祉を増進させるために、活用するステージに入りつつあります。

今回の『第7期相模原市緑区区民会議活動報告まとめ』は、それらの具体的な活動を記しています。本まとめから、緑区の明るい未来を垣間見ることができると思います。

これまでの緑区区民会議を礎にして、いよいよ第8期に入っていきます。第8期の緑区区民会議に期待していただけたら幸いです。

最後になりますが、第7期緑区区民会議は多くの関係者に支えられてきました。関係者の皆様に御礼を申し上げます。今後の緑区区民会議も、関係者の皆様がいなくては、緑区の発展はありえないと思います。引き続き、ご協力、ご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。

令和6年7月

相模原市緑区区民会議
会長 牧瀬 稔

区民会議の目的

区民会議は、政令指定都市移行に伴い施行された区制の導入にあわせて、各区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う場として設置された附属機関(注1)で、区域内のまちづくりに関する次のような事項について話し合ったり、提案したりする機関です。

【区民会議における協議事項の例】

- 市長より諮問される事項
- 緑区基本計画の推進に関すること
- その他区民会議の目的達成に必要な事項

(注1) 附属機関

附属機関は、法律や条例に基づき設置されるもので、市民や専門家の意見を行政に反映させるため、審査や調査などを行う機関のことです。

緑区の区民会議（これまでの経過）

第1期においては、区の将来像や協働によるまちづくりの指針となる「区ビジョン」の策定に向け、市長からの諮問を受け、緑区の特色や課題、将来の方向性等について協議を重ね「緑区区ビジョン」として答申いたしました。

第2期（平成24年7月から平成26年7月まで）では、「緑区区ビジョン」で掲げた区のめざす将来像『地域の個性が輝き 活力あふれる交流のふるさと緑区』の実現に向け、テーマを設けて区ビジョンの推進方策について協議を行いました。

第3期（平成26年7月から平成28年7月まで）では、人口減少や少子高齢化の進行が予測される区の状況を勘案し、観光をテーマにした「未来を拓く活性化検討小委員会」と定住をテーマにした「魅力ある地域コミュニティ検討小委員会」の2つの小委員会を設け、区ビジョンの推進に向けた具体的な方策について協議を行いました。

第4期（平成28年7月から平成30年7月まで）では、「緑区区ビジョン」の評価を班に分かれて行い、区の共通の課題として、地域の情報を一括で発信する必要性などが挙げられるなど、更なる区ビジョンの推進に向けた対応方策について、協議を行いました。

第5期（平成30年7月から令和2年7月まで）では、第1期において、協議を重ねた「区ビジョン（平成24年度～平成31年度）」の趣旨を継承しつつ、人口減少と超高齢化という大きな課題に対し、活力や魅力あるまちづくりが持続的にすすめられるよう、区の目指す姿を定め、取組の方向を示した「緑区基本計画」について、市長からの諮問を受け、答申いたしました。

第6期（令和2年7月から令和4年7月まで）では、緑区特有の課題である「中山間地域の振興」をテーマとして、地域の魅力を生かした施策の検討を進め、「中山間地域の振興にかかる提言書」を作成し、市長へ提出いたしました。

第7期緑区区民会議の活動内容

第7期においては、緑区基本計画の目指す姿である「実る緑区 ～都市と自然がつながり合うまちを目指して～」を実現するための視点に基づき、具体的な事業の提案を目指し、検討してまいりました。

第1、2回においては、課題に感じていることやテーマに設定したいことなどについて共有し、緑区内6地区の情報の共有化が重要であることを確認しました。

第3、4回においては、グループワーク形式で6地区それぞれの地域イベントや魅力の抽出、地域の一体感づくりなどについて意見交換を行いました。

令和5年7月には、グループワークで抽出した各地区の魅力となる施設等の視察を実施いたしました。

第5回では、これまでの意見交換から「緑区としての情報発信」に課題があることが浮き彫りになったことから、テーマを「緑区の一体性をつくるための情報発信」と定め、グループワーク形式で情報発信事業の検討を進めました。

第6回では、情報発信事業の提案に向け、グループワーク形式で手法や担い手について意見交換を行いました。この中で、各グループとも若い世代の意見を聴くことや若い世代へ情報発信することが重要であるとの意見があったため、次回から、「若者による区民会議」、「SNS等を活用した情報発信」の2つの小委員会を設置し、検討を進めることといたしました。

第7、8回では、各小委員会に分かれて事業実施に向けた検討を進めました。

「若者による区民会議」小委員会については、緑区内の県立高校4校の生徒による区民会議事業を提案し、令和6年6月21日（金）に生徒18名による「高校生区民会議」を開催いたしました。

また、「SNS等を活用した情報発信」小委員会については、学生目線の魅力発信プロジェクト事業を提案し、法政大学ソーシャル・イノベーションセンターの協力のもと、事業実施に向けて準備を進めました。

●区内視察の実施

日 時：令和5年7月27日（木）午前9時30分～午後5時

場 所：リニア中央新幹線神奈川県駅建設現場、津久井湖観光センター、小原の郷、小原宿本陣、伊勢屋酒造（古民家活用事例）、相模湖交流センター、森のイノベーションラボ FUJINO、鳥屋車両基地予定地、鳥居原ふれあいの館

内 容：橋本地域では、緑区の発展に寄与するリニア中央新幹線神奈川県駅の建設現場を視察しました。

また、市総合計画推進プログラムの中山間地域振興モデル地区となっている小原地域では、歴史的・文化的な地域資源である小原宿本陣や周辺の古民家を活用した酒蔵などの視察を行った他、森のイノベーションラボ FUJINO等を視察し、地域への理解を深めました。



●「若者による区民会議」小委員会の提案内容

事業名：緑区高校生区民会議

目的：緑区の魅力発信などの事業を進めていくに当たり、次世代を担う若者の柔軟な発想や若者視点を踏まえた検討を行うため、高校生による区民会議を開催する。

手法：グループワーク形式により意見交換を行う。

出席者：緑区内の県立高等学校4校の生徒 計18名

(相原高等学校、橋本高等学校、相模原城山高等学校、津久井高等学校)

議題：(1)「緑区の魅力発信の手法」

(2)「緑区が どうであれば住み続けるか、どうなれば住みたいか」



●「SNS等を活用した情報発信」小委員会の提案内容

事業名：学生目線の緑区PR推進プロジェクト事業

目的：学生、子育て世代に向けた緑区の魅力を今までの行政になかった若者の視点でPRを行うことで、緑区の認知度向上及び移住定住の促進を図る。併せて、若者と地域住民が協力して事業を行うことを通して、緑区の一体感の醸成を図る。

手法：若者の目線で「緑区のPR」を目的とした企画の提案をもらい、実施する。企画提案及び実施については、若者の主導で実施するものとして、市及び区民会議委員有志は必要に応じて、それをサポートすることとする。

協力：法政大学ソーシャル・イノベーションセンター



第7期 緑区区民会議開催状況

回次	開催日	出席者数	傍聴者数	審 議 内 容
1	令和4年9月6日	21	0	<ul style="list-style-type: none"> ・緑区基本計画について ・第7期緑区区民会議の進め方について
2	令和4年11月4日	22	0	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの緑区区民会議の結果について ・区民会議のテーマ設定につて
3	令和5年1月26日	17	0	<ul style="list-style-type: none"> ・緑区における魅力の抽出について
4	令和5年5月15日	20	0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一体感づくり事例について
	令和5年7月27日	12	—	<ul style="list-style-type: none"> ・区内視察の実施
5	令和5年10月5日	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの検討内容を基にした意見のとりまとめについて ・事業提案内容の検討
6	令和5年12月27日	17	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業提案内容の検討 ・小委員会の設置
7	令和6年2月9日	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・各小委員会による事業提案内容の検討
	令和6年3月5日	5	—	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用した情報発信小委員会による事業提案内容の検討
8	令和6年5月13日	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・各小委員会による事業提案内容の検討 ・活動報告まとめ（案）について
合計		延171人	延0人	

第7期 緑区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

任期：令和4年7月30日～令和6年7月29日

	氏名	所属等	備考
1	牧瀬 稔	学識経験者（関東学院大学教授）	会長
2	宮野 善三郎	藤野地区まちづくり会議	副会長
3	森 誠壽	橋本地区まちづくり会議	
4	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	
5	齋藤 信夫（～R5.4.26）	城山地区まちづくり会議	
	小島 盛生（R5.4.27～）	城山地区まちづくり会議	
6	熊谷 弘	津久井地区まちづくり会議	
7	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	
8	松井 光臣	相模原市地区社会福祉協議会緑区連絡会	
9	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	
10	角田 健	市立小中学校PTA連絡協議会	
11	佐伯 守章	相模原商工会議所	
12	小野沢 健二	津久井地域商工会連絡協議会	
13	吉野 賢治	（一社）相模原市観光協会	
14	村上 翔一	（公社）相模原青年会議所	
15	山崎 勇貴（～R4.12.31）	（公社）津久井青年会議所	
	武井 俊長（R5.1.1～）	（公社）津久井青年会議所	
16	佐藤 鉄郎	相模原市既存住宅リフォーム・改築推進協議会	
17	星 和美	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	
18	米山 敦子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	
19	池田 寛二	学識経験者（法政大学名誉教授）	
20	白水 敦子	公募委員	
21	松平 菜保子	公募委員	
22	日高 彩希	公募委員	
23	茂手木 祐介（～R5.6.23）	相模湖リゾート株式会社	
	梶原 英俊（R5.6.23～）	相模湖リゾート株式会社	
24	佐藤 賢策	東日本旅客鉄道株式会社	
25	中原 正貴（～R6.4.1）	神奈川つくい農業協同組合	
	武内 誠（R6.4.2～）	神奈川つくい農業協同組合	

令和6年度 地区まちづくりを考える懇談会 実施要領

1 目的

まちづくり会議の委員と市が意見交換や情報共有をしながら、地域の特性や地域資源を生かしたまちづくりを協働して考える場を設け、住みよいまちづくりを推進する。

2 本年度の開催方針等

各地区まちづくり会議が市長と地区のまちづくりについて考える「対話」の場を希望した場合に実施する。

また、名称を『地区まちづくりを考える懇談会「地域の未来を語ろう with 市長」』として実施する。

3 開催単位

実施希望地区のみ年1回1会場までとする。

4 実施方法

各地区まちづくり会議と市の協働により実施する。

5 開催日等

実施日及び会場は、まちづくり会議と市との調整により決定する。

開始時間は原則午後6時からとし、協議により変更可能とする。

(まちづくり会議側からの希望がある場合は、昼間の実施も可能とする。)

6 進行等

懇談会の進行等はまちづくり会議の代表者等が行い、実施時間は概ね1時間30分とする。

7 出席者

(1) 地区の出席者は、まちづくり会議の委員とする。なお、まちづくり会議が特に必要とする場合には、委員以外の出席を認めることができるものとする。

(2) 市側の出席者は、市長、テーマ担当副市長、区長、テーマに関連する局長（市長公室長含む。）及び事務局長とする。ただし、区長は副区長が、局長は部長級が代わることができ、部長級が設置されていない局については、局長が指定する所属長が代わることができ、事務局長は次長又は指定する職員が代わることができるものとする。また、まちづくり会議事務局の職員、テーマに関連する部署の課長及び職員も出席できるものとする。

※市長の公務日程等で対応できない場合がある。

8 懇談の内容

地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する（二つ以内）。

【テーマの考え方】

- ア 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
- イ 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

9 傍聴

当日受付とし、地区以外の住民も傍聴可能する。ただし、会場の都合により、座席数には限りがあるため、希望者が多い場合には抽選により、傍聴者を決定する場合がある。

10 周知方法

市ホームページ及び地域情報紙にて周知を行う。

令和6年度 地区まちづくりを考える懇談会 「地域の未来を語ろう with 市長」全体の進行

(司会進行：まちづくり会議副代表等)

■開会

- 1 懇談会開会の宣言（まちづくり会議副代表等）
- 2 出席者の紹介
- 3 まちづくり会議代表あいさつ
- 4 市長あいさつ

■懇談開始

※懇談の視点：「地域でできること」、「市がやるべきこと」、「協働でできること」とは何かという視点から「対話」による懇談を進める

- 5 テーマの概要及び地域での取組状況等の説明
(まちづくり会議から、パワーポイント、資料等を用いての説明も可)：5分程度
- 6 テーマに関連する区や市の取組み等について説明
(区長・局長・部長)：5分程度
- 7 テーマについて懇談：40分程度

・一通り懇談が終わったら、進行役のまちづくり会議代表より、地区でできること、市がやるべきこと、協働の視点など、まとめを含めあいさつを行う。

(全体の感想、今後の地域の取組の方向など、懇談会のまとめを行う。)

■懇談終了

- 8 市長感想（全体の感想、地域への支援、今後の市の取組みの方向など）
- 9 懇談会閉会の宣言（まちづくり会議副代表等）

〇〇地区まちづくりを考える懇談会

「地域の未来を語ろう with 市長」テーマ

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する(二つ以内)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	
内 容	
担当部署	

■上記テーマに関する地区の取組状況等

取組状況	
------	--

■地域トピックス（既存の関連資料等がある場合にはご恵与ください。）

地区の課題（テーマ以外にある場合）、アピールしたい点、工夫している点、良いところ、現在取り組んでいる活動など、市長があいさつで触れるべきこと、または触れてもらいたいこと。

〇〇地区まちづくりを考える懇談会
「地域の未来を語ろう with 市長」テーマ

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを設定する(二つ以内)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
- ② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	子どもたちの居場所づくりについて
内 容	<p>当〇〇地区は、子どもたちの遊び場となるような公共施設が少なく、居場所づくりが課題であるが、住宅地の周辺には自然が豊富にあることから、子どもたちが健やかに成長していくための地域資源に恵まれていると考えている。</p> <p>子どもたちが健やかに成長していくためには、様々な体験を通して豊かな心を養っていくことが重要であり、当〇〇地区では、子どもたちの居場所づくりのための取組を実施しているが、自然を生かした取組については、まだ行えていない現状がある。</p> <p>現在、当地区で実施している取組についてご説明するとともに、自然を生かした居場所づくりについて、市と地域が協働して行うことができる取組について懇談したい。</p>
担当部署	〇〇課、〇〇課

■上記テーマに関する地区の取組状況等

取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・当〇〇地区では、子どもたちの居場所づくりの活動として、平日の空き時間を利用して、自治会館及びその敷地内を子どもたちの遊び場として開放し、地域の住民が交代で見守り役を担っている。 ・〇〇公民館を会場として、2か月に1回、こども食堂を開催している。徐々に参加人数が増えてきており、次年度からは毎月開催したいと考えている。 ・子どもたちが地域の資源である自然に触れ、体験することで、健やかに成長していくための環境づくりについてはまだ十分ではなく、貴重な地域資源が生かされていないと感じている。
------	--

■地域トピックス（既存の関連資料等がある場合にはご提供ください。）

<p>地区の課題（テーマ以外にある場合）、アピールしたい点、工夫している点、良いところ、現在取り組んでいる活動など、市長があいさつで触れるべきこと、または触れてもらいたいこと。</p>

令和6年度城山地区まちづくりを考える懇談会の テーマにおける前回全体会の主な意見

- ・懇談会実施は賛成だが、テーマについて用意された回答を聞くだけでは意味がないので、双方が意見を交換できるようなテーマが望ましい。
- ・1時間半という短い時間で実施しているため、内容が希薄になっている。深掘した内容の懇談会にするには時間が短すぎるため、城山地区だけ時間を長くしてもらおう等の要望を出してほしい。
- ・懇談会において、テーマに対しての市の説明は、言葉と文章だけで分かりにくい。動画や写真を活用した分かりやすい内容にしてほしい。
- ・あくまで懇談会なので、課題の解決をこの場に求めるのは無理だと思う。懇談会を経て、協議会等を作るなどして具体的な課題解決に向けて取り組むべきである。
- ・防災に強いまちづくりをテーマにしても良いと思う。
- ・防災に関しては、公共ができることは限界があるため、公共に頼るのではなく、地域で自助・共助の力を高めることが重要である。
- ・城山地区にある市街化調整区域を見直す必要があると考える。今後の相模原にとってより良い都市計画にしてほしいので、テーマとして採用するのも良いのではないかと。
- ・地域経済の活性化も重要な課題なので、テーマにするのも良いと思う。
- ・市として地域自治のあり方をどう考えているのか、市の立場、地域の立場で意見交換をしたい。
- ・相模原市は、津久井地域を除いて平らな土地が多いので、自転車道の整備に力を入れるべきである。現状では安全・安心して自転車に乗ることができる道が少ないので、渋滞緩和やエコの観点からも必要なことである。
- ・鍛冶谷相模原線の歩道が狭い問題について、懇談会のテーマにするかどうかは別として、要望として市に出しておくべきである。

令和 6 年度城山地区まちづくりを考える懇談会実施に関する
アンケート結果について

1 令和 6 年度城山地区まちづくりを考える懇談会で、地域の課題等について市幹部と意見交換をしたいと思いませんか。

※まちづくりを考える懇談会とは

まちづくり会議と市長等が意見交換や課題解決に向けて協働して考える場

	回答数
実施したい（テーマあり）	3
実施したい（テーマなし）	2
実施する必要がない	1
合 計	6

2 1で「意見交換をしたいので実施したい」と回答した場合、何について意見交換をしたいですか。

分野	テーマ	主な内容	分類※
地域づくり (1)	地域社会の課題解決や地域コミュニケーションの更なる展開を、行政の助力のもと地域住民主体で解決していく活動・運動の担い手確保の為に仕組みや仕掛けの構築について	・人口減少時代、高齢化社会、自然災害リスク急増の今日、DEI（多様性、公平性、包摂性）を求める地域住民の幸せ（ウェルネス）と住みよい城山地区を目指す上で、公共（行政）サービスの人手があまりにも本市は少ないと思われる。そこで、公共サービスを補完する共助としての各種団体の活動が進められているが、高齢化、人口減少、自己の生活で一杯、地域自治への無関心等、活動の担い手確保に窮している現状がある。これを打破するべく、ミニシパリズムの活動や、米国の地域活動であるコミュニティ・オーガナイズングの活動、更には、DAO（分散型自立組織）としての協働組合方式等の仕掛け、仕組みの試行、是非の検討をして、実行していく事が必要と考える。	長期
交通 (2)	安心安全で住みよい町づくりの一環として自転車道の整備について	・自転車はエコな移動手段であり、本市は一部中山間地域を除けば地用に適している。公共施設等の一部で試行的実施がされているが、全市的に利用できるような道路を選定し、自転車道を整備する必要がある。国道16号の自転車道整備を例に、水道路等についても検討してほしい。	長期

	<p>安全安心な主要幹線道路の整備促進 「城山地区で最も危険な県道48号線（鍛冶谷相模原線）」</p>	<p>城山地区を南北に貫く主要幹線道路の鍛冶谷相模原線は非常に交通量の多い道路である。（平成27年度の交通量調査で1日15960台、昼間12時間は12000台）向原の住民の方にとって、利用する事の多い道路であり大切な道路である。特に危険な所が、Aコープ城山店のある向原交差点からJA会館のある川尻交差点までの区間で、八王子方面に向かって左側の歩道は狭くてベビーカーや車椅子の通行が困難、一方右側は一部のみ歩道が整備されているが、多くが歩道すらない状態である。しかもこの区間は小中学生が日々通学で通行、横断する場所でもある。</p> <p>過去、向原自治会と久保沢自治会が中心となって要望活動を行ってきたが進展しておらず、逆にこの数年の間に道路すれすれに家屋が建設され危険度が増している状況である。この区間の安全対策は早期に実施する必要があると考える。</p>	<p>短期</p>
--	---	---	-----------

※ 短期…現在直面している課題

長期…将来に向けた課題

3 自由意見

<p>まちづくり会議、そのものの意義、位置付けについて市の考えを聞きたい。城山地区独自で何か取り組みたいと思っても、予算がないし、手段の一つとしては地域活性化事業交付金があるが、3年間で上限なので継続させることが難しい現実がある。このような内容について話し合いができればよいと思う。</p>
<p>まちづくり会議の次の時代への展開として、地域課題の解決を検討、討論するだけの組織ではなく、実行（解決等）ができる組織への展開を考えていくことが必要である。</p>
<p>城山中央公園について、まちづくり会議として参画することを希望する。</p>
<p>今回の安全安心なまちづくりに対する意見は、会議の中で机を挟んで意見交換をするだけではなく実際に歩いて見ないと危険度は分からないと考える。 別件だが、八王子方面に向かって左側は夜間防犯灯さえない道路であり、今年度少しながら危険が回避できるように自治会連合会の会議において城山地区として5灯の申請許可をいただいた。</p>

6 市協課第 6 1 7 号
令和 6 年 5 月 2 8 日

まちづくり会議代表 殿

相模原市長 本村 賢太郎
(公印省略)

令和 6 年度 地区まちづくりを考える懇談会について (通知)

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から市政につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、お礼申し上げます。

さて、令和 6 年度地区まちづくりを考える懇談会の実施希望等について「1 実施にあたっての留意点」及び別紙「実施要領」をご確認のうえ、ご検討いただき、各まちづくりセンターを通じてご回答いただきますようお願いいたします。

1 実施にあたっての留意点

(1) テーマについて

テーマの数につきましては、原則一つですが、時間内での運営となることが見込まれる場合は、二つまで可能とします。

なお、テーマ設定については、次の例を参考にしてくださいようお願いいたします。

【適当な例】地域資源をいかしたテーマになっている。

テーマ：〇〇を活かした地域の魅力発信の方法について

テーマ：〇〇跡地の有効活用による地域の活性化について

【適当でない例】広範なテーマに関連性のない地域課題を複数詰め込んでいる。

(2) 懇談内容について

単なる要望や事業説明は、まちづくり会議の場等へ担当する局部長や所属の出席を求めて行うことが可能であり、より迅速な地域課題の解決につながるため、まちづくり懇談会での単なる要望や事業説明を求める内容は、適当ではないものと考えております。

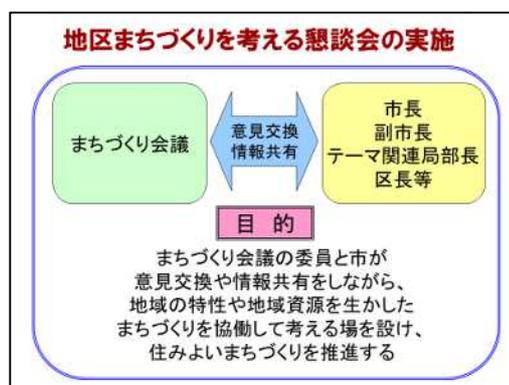
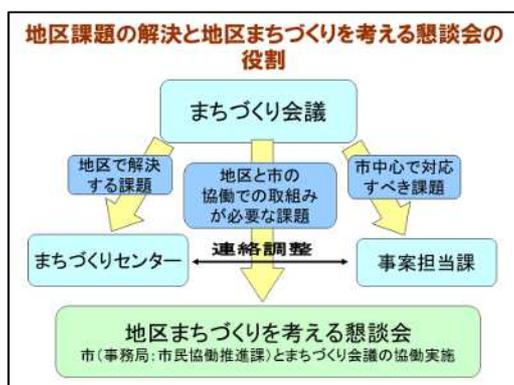
【適当な例】テーマに沿った内容になっている。

〇〇を活かした魅力発信を行う中で、地区と行政の協働で何ができるか

〇〇跡地の有効活用により、地域が目指す未来像について 等

【適当でない例】単なる要望や説明を求める内容になっている。

(参考) 地区まちづくりを考える懇談会の役割等



以上

市民局市民協働推進課
担当：三尋木・小澤・田頭
電話 042-769-8226 (直通)

令和5年度城山地区まちづくりを考える懇談会 「地域の未来を語ろう with 市長」結果報告

■地区のまちづくりに関して、地区でテーマを選定する(原則一つ)。

- ① 現在、地区で重点的に取り組んでいるもの。
② 今後、地区で取り組んでいく必要があるもの。

■テーマの概要・内容

概 要	ごみ収集における地域と自治体の役割について
内 容	<p>ごみの収集方式は、ステーション（ごみ集積場所）収集と戸別収集に分かれるが、城山地区では、全域がステーション収集であり、そのごみステーションの設置・管理は利用者である地域住民が行うことになっており、自治会等の地域団体がその役割を担っている。</p> <p>しかしながら、住宅開発が進み世帯数が増加している地域においては、住宅地の開発基準との関係でごみステーションが設けられないケースがあり、既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所が複数ある。</p> <p>こうした中、自治会員以外への対応をこれまでどおり自治会が担っていくことは、自治会加入率が約50%という状況から考えても困難であり、また、ごみステーションを新設する際の土地の確保も難しく、自治会での対応には限界がある。</p> <p>そこで、ごみステーションの設置・管理を市と地域住民で協働して行うことができる仕組みづくりや、戸別収集への変更の可能性などについて懇談したい。</p>

■地区の取組状況等

・城山地区では、地域が一体となってごみの分別や資源回収、ごみの減量化に取り組むなど、市が進めるごみ対策に積極的に協力している。特に集団資源回収については、12の自治会のある城山地区内で、子ども会や自治会などの14団体が実施しており、この活動はごみの減量化だけでなく、地域コミュニティの醸成とSDGsの推進にも寄与している。

■市の取組状況等

市の現状・経過・取組状況（廃棄物政策課・津久井クリーンセンター）

◎ごみ集積場所について

- 集積場所用地については、地域や利用者間で調整し、確保することを基本として、個別の相談にも応じているが、地域によっては、用地の確保が難しい場合もあると認識している。
- 集積場所の新設・移設等については、市民の方から相談を受けることがあるが、市民の方のご理解とご協力によりスムーズな解決ができるよう心掛けている。
- 令和5年11月17日（金）に城山地区自治会連合会会議において、小田急電鉄株との一般ごみ収集のDX化に関する実証実験について説明した際に、原宿自治会会長から「既存のごみステーションのごみ排出量が許容量を超えている場所がある。」との意見があり、11月20日（月）に現地及び周辺を確認した。新設には集積場所の確保等の観点から、困難であると判断したが、周辺には、ごみの排出余力がある集積場所が確認できたため、自治会長に代替案として、ごみを集積場所に排出する世帯の分散を行っていただくことを提案し、自治会として検討するとの回答を得ている。

◎戸別収集について

- 今年度、収集体制の在り方等についてコンサルに業務委託を行い、必要な人員や車両数を検証するための積算や課題の洗い出しを行っている。
- 本市の一般廃棄物処理の基本方針である「第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画」の改定中であり、戸別収集については「市民ニーズに対応したごみ収集の検討」と明記している。
- 市内の約34万5千世帯（令和5年11月時点）について、一般ごみ及び資源物も含めて検討する必要があり、本市では、居住形態の約半数が共同住宅のため、こうした方々は戸別収集となった場合でもステーション収集のままとなる。
- 令和5年10月17日に相模原市環境事業協同組合と戸別収集について意見交換会を実施し、特に若い人の人材確保や収集体制等についての意見があった。
- 戸別収集は、ごみが出しやすく、排出マナーの改善が期待されるなどのメリットがある一方、住宅ごとの敷地内にごみの排出場所の確保や、カラス対策等も各戸で対応する必要がある。また、現状のステーション収集と比較して、多額の経費や多くの作業員を要する必要があるなどといったことが課題となる。

今後について

◎ごみ・資源集積場所について

- 他自治体の事例も参考にしながら、民間事業者への働きかけなど、ごみ・資源集積場所の確保策について研究し、地域住民が安心して利用できるよう望ましいあり方について検討する。

◎戸別収集について

- 本市のごみの排出量や近隣自治体の動向なども見極めながら、本市に適した収集体制の在り方について検討する。
- 高齢化に伴い、ごみ出しが困難となる方々の支援が課題と認識しており、関係機関と連携を図りながら社会情勢やニーズに対応した収集体制について検討する。

参 考

◎ごみ・資源集積場所設置数一覧

地区	大字	設 置 数
相模原市域		19,169
相模原市域（夜間収集）		1,238
津久井地域（4地区）		2,281
・城山地区		711
	小倉	19
	原宿	121
	向原	87
	川尻	37
	葉山島	13
	原宿南	59
	久保沢	75
	城山	57
	谷ヶ原	17
	中沢	20
	広田	10
	町屋	151
	若葉台	45
・津久井地区		846
・相模湖地区		371
・藤野地区		353

※ごみ・資源集積場所数については令和5年4月1日現在

◎戸別収集の実施状況

政令指定都市…名古屋市、大阪市、堺市、福岡市

神奈川県内…藤沢市、大和市、海老名市、（厚木市※モデル地区として実施）

近 隣 市…町田市、八王子市

◎戸別収集のメリット、デメリット

○メリット

- ・市民が廃棄物を排出しやすい
- ・高齢者等の排出負担が軽減される
- ・事業系廃棄物を切り離すことができる
- ・排出マナーの改善が期待できる
- ・分別排出が徹底される
- ・個別の排出指導を行いやすい
- ・廃棄物搬出に対する責任の醸成が図られる

○デメリット

- ・作業量が多く、収集時間がかかるため、収集費用が増大する
- ・ごみ収集車が増加するため、環境負荷が増加する（二酸化炭素排出量の増加）
- ・排出者自身が収集箱等を設置し、カラス対策等を講じる必要がある
- ・プライバシーの問題が指摘される
- ・集合住宅では、ステーション収集方式と変わらない
- ・事業者の人材確保が困難

【質問・意見と市の回答】

質問・意見	市の回答
<p>戸別収集について、緑区では高齢者が多いということもあり、導入すれば大きなメリットがあると感じる。一方、中央区・南区は共同住宅が多いため、戸別収集のメリットがあまりないのかもしれない。区ごとに区別して戸別収集を検討しているか。</p>	<p>区ごとに区別して収集体制を検討することも考えられると思っはいるが、課題も非常に多いと考えている。ただ、今後のことを考えると、固定概念に捉われず、様々な角度から検討していきたいと考えている。</p>
<p>戸別収集と現状の収集体制、経費の違いなどは試算が出ているのか。戸別収集をやっている自治体はごみ袋が有料である。高齢者が多い地域は、戸別収集のメリットがあるが、ごみ袋が有料になって負担を強いられる側面もある。市はどう考えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集の傾向として、ごみ袋の有料化がセットで行われているところが多いが、本来は別の話である。戸別収集にした場合、市の財政的な影響はどのくらいあるのか、課題はどんなものがあるのか、検討しているところで、今後、本市に適した収集体制のあり方を検討していきたい。それとは別に、ごみ袋有料化については議論が必要であると考えているが、どれが一番適した体制かというところは、まだ結論は出ていない。 ・現在、コンサルに業務委託して戸別収集した場合の人員や経費等の調査をしている状況で、調査結果を踏まえて算出する予定。 ・戸別収集になると作業員の動く距離が長くなるが、作業員の高齢化が進んでおり、実際に作業ができる体制が整うのか、作業員の人員も増やす必要があるため、採用できるのか、様々な検討が必要である。町田市や八王子市で実績のある事業者には現状や課題を聞き、検討していきたい。
<p>ごみ収集体制の在り方の検討はいつまで行う予定か。時期的なことを教えてほしい。また、市民の意見をどのように聞いて進めていくのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、調査を行っており、データは年度末に出るので、時間をいただきたい。 ・一般廃棄物処理基本計画は令和9年度までになっているので、令和9年度まで検討を行うことになるかと思う。課題が多いので、皆さんの意見を聞いて進めていくべきだと考えている。
<p>実験的にある地区で戸別収集を実証してみるとか、そのようなことは計画にあるのか。政令市なので、もっとスピード感を持ってやってほしいし、計画があれば積極的にアナウンスをしてほしい。</p>	<p>町田市、八王子市は戸別収集をやっているの、皆さんが気になるころではないかと思うが、逆に横浜市や川崎市などの大都市はやっていないという状況もある。いろいろと課題があつての選択だと考えているので、検討していきたい。特に高齢者のごみ出しは切実な問題だと考えているので、先行してやれるかどうかは議論が必要だが、なるべく対応できるころはやっていく姿勢で臨みたい。</p>
<p>ごみ収集について地域住民を巻き込んで、一緒に考える場を設けてみてはどうか。自治会に投げるだけではなく、いい仕組みを作って、話し合う場を設けてほしい。</p>	<p>ごみを集めやすく、出しやすくするためにも、市と地域の歩み寄りができる仕組み作り、対話が重要だと思うので、担当課や区役所、まちづくりセンターも一緒になって、話し合いの機会を頻繁に設けるのは重要だと考えている。</p>

質問・意見	市の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集はいい話だと思うが、経費が何倍もかかるのではないかという気がしている。 ・ごみステーションの場所だが、土地代が安い地区でも、やはり自分の土地に置いていいという立派な人はいない。津久井クリーンセンターなど、市の職員はよくやってくれているが、トラブルは絶えない。公園の一角とか広い市道の一部を使用するなど、公園は公園、道路は道路ではなく、縦割りではない横の連携を密にして対応してほしい。そういう視点で考えてもらえれば、自治会も一緒になって考えることができるし、いい方向に話が進むと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や道路を削ることが最善かどうかは検討が必要だが、縦割り行政ではなく、横の連携をしながらより良い方向を見出せるよう努力していきたい。その結果、安心してごみステーションを利用できる環境作りを実現していきたい。 ・地域の方との意見交換の場が必要であると考えているので、しっかり取り組んでいくということはこの場で約束したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアをやっていると、高齢者からのごみ出し依頼が増えている現状がある。1回につき100円で行っているが、ごみステーションまでごみを出すのが難しいという方が多い。戸別収集は収集する作業員の人員増や負担増もあるため、お金だけでは解決できない難しい問題である。 ・広報紙に、資源ごみをリサイクルして売り払うと、9億円程度になることを知った。このお金をどのように使っているのかわからないが、自治会などへの補助金を増やして、ごみステーションの改修や新設に使ってほしい。 ・地域の方が自分の土地にごみステーションを置いても良いと思えるような、清潔な環境を整えることも必要。 ・ごみ出しの際、空気を抜いて出すなどの工夫は住民にはできるが、ボックスの購入などは住民にはできないので、ぜひごみ行政にお金を使ってほしい。 ・行政がごみ問題に取り組んでいると思っていたが、自治会が問題に直面して苦労しているということを聞いて唖然とした。自治会の加入、未加入に関わらず、行政がお金を出して対応してほしい。 ・ごみ収集のDX化は、不法投棄を助長させるように感じる。外部から来て、空いているステーションにごみを捨てる人も出てくると思うので、DX化ではなく、ごみステーションの設置などを行政が対応してほしい。京都は夜の収集なども行っているため、そういうのも参考にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルによる資源の売り払いで9億3千万円ほどの収入があることは事実だが、その回収に倍以上の費用がかかっており、市の儲けになっている訳ではないので、廃棄物行政の一部に使っている。ごみの中には資源化できるものが入っているので、リサイクル・資源化の普及啓発に取り組んでいる。 ・夜間収集や戸別収集には課題もある。戸別収集はカラス対策などの懸念材料があるが、高齢者への対応は早々の対応が必要であると認識しているので、早く実現できるよう努力していきたい。 ・南清掃工場の金の回収について、令和3年度から始めているが、取組みを進めていきたいと考えている。売却収入から経費を引いた利益について、令和3年度は約3,700万円、令和4年度は約1,600万円である。また、パラジウムという金属の回収に向けて研究を進めているところである。廃棄物行政は注目を集めているので、全力で取り組んでいきたい。

質問・意見	市の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量はどこの自治体でも課題であるし、エッセンシャルワーカーの課題もある。そういったことも含めて、市で、ごみについてみんなで考えるシンポジウムのようなものを立ち上げて、行政と市民が一緒になって考えていく展望を持ってほしい。ごみとどう付き合っていくのかを市全体で考えることができれば面白いと思う。 ・行政からは、検討していくという言葉をよく聞くが、市民が参加しながら課題に向き合う取組みができれば、大きなSDGsになると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみも一つの資源であるので、循環型社会の考え方を普及させていきたい。ある会社は、コンビニなどのお店の食品で賞味期限切れのものを豚の肥料にする取組みをしていたり、これまで燃やして処分していたものを資源として活用する取組みが発達してきている。皆さんに知っていただき、理解を深めていただきたい。 ・動静脈連携という言葉があるが、今までは生産者の効率が向上してきて極まってきているが、廃棄物に関してはまだ改善の余地があるという考え方があるので、生産の過程においても廃棄物のことを考えて、効率化していく取組みが発達していくと思っている。市としても、ごみの排出者の意識を変えていく取組みも進めていきたい。
<p>分別やごみの減量は地域で努力するが、ごみステーションの容量が少なくごみを出せないようでは困るので、行政がごみステーションの設置やボックスの整備をしてほしい。昨年、下九沢にあるごみ焼却場を見学したが、ごみに対しての意識も変わるので、ぜひ、焼却場を見学して、現実を見てほしい。</p>	<p>清掃工場を見学していただくことが、廃棄物に関する理解が早まる一つの方法だと思う。最終処分場なども見学していただき、ごみ分別の重要性を理解していただきたいと考えている。清掃施設課では、見学を積極的に受け入れているので、問合せをいただきたい。</p>
<p>高齢者のごみ捨てについて、現状を伝えたい。ごみステーションまで道路を渡らなくてはいけない方は、車が危ないので、朝の3時とか4時にごみ出しをしている人がいる。ごみの分別ができなくてごみ屋敷になっている人もいる。ヘルパーやボランティアなどをお願いしてごみ捨てをお願いしている人もいるが、ヘルパーやボランティアが不足しており、ごみ排出の曜日をお願いできない状況がある。その場合は1日前、2日前にごみ捨てをすることがあるが、ステーションやボックスの状況によってはその方法が難しいこともあるので、きちんとしたステーションやボックスがある安心した社会の実現のためにも、自治体に頼ることなく、行政が設置・整備をしてほしいと思う。</p>	<p>高齢者のごみ捨ての問題は喫緊の課題として認識している。実情をよく理解して、皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。</p>
<p>地域の問題について、市と地域、双方が話し合える機会を作っていただけるということで、協働してこの課題に取り組んでいきたい。検討の結果、報告できるものがあれば、まちづくり会議で報告をしていただきたい。</p>	<p>待つ行政ではなく、出向く行政に変えていかなくてはならないと考えているので、ぜひ対話の機会を作っていきたい。</p>

高齢者とともに築き支える地域づくり部会 検討事項

1 広田小学校区（小松・城北・町屋地区）おたがいさまの縁づくり（9月28日実施予定）実施方法の検討

- ・参加者募集チラシ
- ・日時、場所、ルート等
- ・その他

2 湘南小学校区（葉山島地区）おたがいさまの縁づくり（11月実施予定）実施方法の検討

- ・参加者募集チラシ
- ・日時、場所、ルート等
- ・その他

3 今後の予定

小学校区	日時	主な見回り場所
湘南小学校区	令和6年11月	葉山島地区
広陵小学校区	令和7年1月	若葉台地区

令和6年度

城山地区まちづくり会議 子どもの主体性を育む地域づくり部会

「あつまれ～ しろやまっこ！」

『モルックで遊ぼう!!』 事業概要

開催日時	令和6年12月7日(土) 9:30～受付 10:00～12:00
場所	川尻小学校校庭(雨天時:川尻小学校体育館)
主催	城山地区まちづくり会議子どもの主体性を育む地域づくり部会
協力	法政大学 ソーシャル・イノベーションセンター 学生プロジェクト しろやまふれんず 城山地区子ども会育成連絡協議会
対象	城山地区在住の小学校3年生～6年生
定員	64名(先着順)
申込方法	QRコード〔名前、学校名、学年、モルックの経験の有無 緊急連絡先〕
締切	11月11日(月)
内容	・4人1チーム(*事前にチーム分けをしておく) 8人で15分間モルックのゲームを行う。 ・ゲーム終了後、豚汁を食べながら子ども達に聞き取りをする。 【感想、今後どんなことをやってみたいか】 ⇒次年度につなげる。
予算総額	108,000円(6年度地域活性化事業交付金)
広報	・各小学校へチラシの配布 ・ポスター掲示 ・地域情報誌への掲載
啓発活動	もみじまつり 10/20(日)にてモルックの体験を実施